

2年『随筆の味わい』（『枕草子』）  
——清少納言の四季の考え方を読み取る——

○単元・教材の目標とポイント

【単元・教材の目標】

- ・清少納言の四季に対する見方や感じ方を捉える。 [知識及び技能] (3)イ
- ・作品中の表現を自分のイメージと結びつけながら考えを深める。

[思考力, 判断力, 表現力等] C読むこと(1)オ

【単元・教材のポイント】

本単元では、「季節」という身近な題材を扱う。近年では、「季節」といえば、春は花粉症、夏は猛暑・ゲリラ豪雨、秋は台風、冬は積雪による交通トラブルなど、マイナスイメージの話題が目立ってしまっているのではないか。日の暖かさから春を感じたり、風の涼しさから秋の訪れに気づいたりするような自然環境からは少し離れてしまっているように感じる。特に中学生は、部活動や勉強、習い事などで忙しい日々を送っている。気持ちに余裕をもち、自分を取り囲む環境に目を向けさせることで、自然との関わりを意識的に捉えさせたい。

『枕草子（「春はあけぼの」）』は、清少納言のそれぞれの季節に対する心情表現がはっきりと示されている。どのような事柄に目を向け、何に心動かされているのか。文章の構成としては比較的平易であると考えられる。しかし、現代語訳を読んだだけで、現代の中学生が清少納言に共感できるだろうか。「夏」の「夜」に「雨など降る」という表現を実体験のみで捉えてしまえば、この作品は理解できない。一方で、「蛩」を見たことがあるか、「虫の音」を聞いたことがあるかという経験の違いで、共感できるかどうかとも分かれる。

作品世界と現代社会を比較し、作者の「をかし」「あはれ」の理由を考えさせることは、他者のものの見方や考え方に近づく経験にもなる。それだけではなく、本当に心動かされたときには言葉が見つからないという思いは、中学生が「すごい」「やばい」を多用する現象と比較することも可能ではないだろうか。

自分の気持ちを表現する難しさも含めて、『枕草子』を通じて相手の心に寄り添う読み方に気づかせることが、この単元のポイントとなると考える。

〈言語活動のポイント〉

文章を読むという行為は、時として独りよがりになってしまうことがある。共感できない作品は「おもしろくない」と捉える。古典は言葉の難しさもさることながら、現代との共通点を見出しにくいために作品との距離感ができてしまう。そこを埋めるため、グループでの話し合いをさせた。他者の経験や考えを聞くことで、自己のイメージを広げ、作品の情景を疑似体験ができるよう進める。さらに、作者のいちばん共感してほしい季節を考えさせるという活動を加え、それぞれの季節に対する言葉の使い方、表現の工夫などを比較しながら意識的に読み、作品世界の理解をより深められるよう試みた。これは新指導要領の〔思考力, 判断力, 表現力等〕C読むこと(1)エを踏まえた活動であり、(2)イに対応している。

意識したことは、キーワードを探すことである。一見、単語が並んでいるだけの文章の中から、作者が一つ一つの言葉にこめた思いを想像し、共感を促した。共感ができなくても、清少納言の捉え方を読み取ることは可能である。言葉のもつ意味の重要性と、表現するための手段としての言葉の使い方を感じ取らせたい。

ここでは4人でグループを作り、小さな集団での考えをまとめる。それを発表し、再考させる活動は、個から全体へ発信し、全体から個へ収束させるためである。最終的には個の読みにつなげることが目的である。

○評価規準

| 知識・技能                                 | 思考力，判断力，表現力等   | 主体的に学習に取り組む態度                                      |
|---------------------------------------|--|--|
| ・言語の手がかりを見つけ，清少納言の四季に対する見方や感じ方を捉えている。 | ・作品中の表現を自分のイメージと結びつけ，それぞれの特徴を読み取ることで，季節の感じ方について考えを深めている。 C読むこと | ・グループで意見を交流し，自分と他者の考えを比較し，プリントにまとめたり発表したりしようとしている。 |

○学習指導計画（全4時）

| 時数 | 学習活動                                | 評価基準                      |
|----|-------------------------------------|---------------------------|
| 1  | ○本文の音読をとおして，読み（文語表現）と意味（現代語訳）をつなげる。 | ◇言葉のくぎりを意識して読んでいる。        |
| 2  | ○清少納言の四季に関する心情と情景について意見交流をする。       | ◇他者との相違点・共通点をプリントにまとめている。 |
| 3  | ○グループごとに発表を行い，他者との考えを比較する。          | ◇発表を聞き自己の考え方を見つめ直している。    |
| 4  | ○自分の発表やプリントを振り返り，自己評価する。            | ◇自己評価をし，作品への理解を深めている。     |

○本時の展開（3／4時）

【ねらい】

- ・他者の発表を聞き，自己との考えと比較し，作品への考え方を見つめ直す。

【本時の展開例】

| 学習活動   | 指導の留意点                                  | ◇評価基準                               |
|--|---|-------------------------------------|
| 1 プリントをもとに，清少納言がもっとも共感してもらいたいと，推測できる季節を話し合う。 | ○根拠を明確にしてまとめるために，他の季節との違いを考えさせるよう助言する。  | ◇季節ごとの表現の違いや工夫などを比較しながら読み取っている。     |
| 2 発表を聞いて他者との相違点をまとめる。                        | ○自己と他者の意見を色分けしてメモを取らせ，あとで見直しやすくなるようにする。 | ◇自分と異なる考えとその根拠を明確にしながメモを取っている。      |
| 3 他者の意見を聞いたうえで作品を読み直す。                       | ○具体的な表現を理解できているか机間巡視する。                 | ◇作品を読み直し，現代の感じ方との違いや共感できる事柄に気づいている。 |

○授業の成果と課題

- ・四季という身近な季節を見直し，古典の情景と比較することは，生徒にとって新鮮だった様子である。訳す際に「春は明け方」のあとに「よい」というような意味が加わる人が多いのはなぜかと考える生徒も見られた。「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」という書き出しに対する理由を読み取ることが興味深かったという感想もあった。指導計画には記していないが，この活動の間に，家庭での音読を課題としていた。保護者

の前で読み，感想を一筆いただくという課題である。合計3回の課題だったが，保護者のコメントには「本文の内容理解が深まっていることがわかる読み方になってきた」というものがあり，現代語を読むだけでなく，声に出して読むことも古典の理解につながるということがわかった。

また，秋に視覚的情報と聴覚的情報が取り上げられていることから，夏の「雨」についても聴覚的な感想なのではないかと推測し，現代の雨との違いに着目する生徒もいた。「蛍」に関しては，実際に蛍を見た経験の有無により理解が異なり，「ほのかに」を共有するための話し合いは盛り上がっていた。月の光と蛍の光の比較は，作者の意図によるものであるという結論になった。他にも，視覚情報と聴覚情報の使い分けという表現の工夫，文章の長さ，色の使い方などから，清少納言のその季節に対する興味の深浅を指摘する生徒もいた。また，絵を描くことで情景の美しさを表現するグループもあり，授業者としては想定外のよい経験となった。

課題としては理解の深まりをもう少しわかりやすく提示する方法を考えることである。例えば，作品をもとに現代の四季のよいところを表現させるなどが考えられる。さまざまな領域に学習を広げられる教材であるため，さらに工夫した授業を考えていきたい。

○参考資料（配布プリント・生徒記入の一部）

※この内容に他者の発表を書きこんだ。

『枕草子』（清少納言） 「春はあけぼの」 学習プリント①

年 組 番 氏名

★清少納言の四季に対する見方や感じ方について

| 季節 | イチオシ！ | 何が           | どのような状態・状況  |
|----|-------|--------------|---|
| 春  | あけぼの  | 山ぎは<br><br>雲 | やうやう白くなりゆく<br>↓<br>少しあかりて<br><br>紫だちたる<br>↓<br>細くたなびきたる |

| 季節 | イチオシ！         | 何が         | どのような状態・状況   |
|----|---------------|------------|--|
| 夏  | 夜<br>月の頃<br>闇 | 蛍<br><br>雨 | 多く飛びちがひたる<br>また、ただ一つ二つなど、<br>ほのかにうち光りて行くもをかし<br><br>降るもをかし |

| 季節 | イチオシ！                  | 何が  | どのような状態・状況   |
|----|------------------------|---|--|
| 秋  | 夕暮れ<br><br><br>(日入りはて) | 夕日<br>山の端<br>鳥<br><br>雁<br><br>風の音<br>虫の音 | さして<br>いと近うなりたるに<br>寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど<br>飛び急ぐさへあはれなり<br><br>つらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし<br><br>いふべきにあらず |

| 季節 | イチオシ！                    | 何が                 | どのような状態・状況   |
|----|--------------------------|--------------------|--|
| 冬  | つとめて<br><br>(比べよう！)<br>昼 | 雪<br>霜<br><br>火桶の火 | 降りたるはいふべきにあらず<br>いと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎ<br>おこして、炭持て渡るも、いとつきづきし<br><br>(ぬるくゆるびもていけば)<br>白き灰がちになりてわろし |